

## 医学系研究に関する情報の公開について

研究機関名*	独立行政法人労働者健康 <del>安全</del> 機構 大阪労災病院
研究課題名*	硝子体手術 (PPV) 併施の白内障手術 (PEA+IOL) 後の眼内レンズ (IOL) の偏心・傾斜が視機能に与える影響
所属科*	眼科
研究責任者*	岩間 康哲、池田 俊英、恵美 和幸
研究実施期間	開始 西暦 2017 年 1 月 1 日 ~ 終了 西暦 2017 年 12 月 31 日 (予定)
対象疾患 (予定症例数)	当院で白内障硝子体同時手術を行う症例 (50-60 症例)
研究対象となる治療・手術・検査の時期	自 西暦 2017 年 1 月 1 日 ~ 至 西暦 2018 年 3 月 31 日
研究概要*	<p>本研究は、白内障硝子体同時手術後の眼内レンズ (IOL) の偏心・傾斜が術後の波面収差に与える影響について検討するものである。近年白内障手術は大きく進歩し、非球面レンズやトーリックレンズなどのプレミアムレンズの普及により、矯正視力を回復するだけでなく波面収差などの高次な視機能の改善も求められるようになってきている。これまでに白内障手術後の IOL の偏心・傾斜およびそれが視機能に与える影響についての報告は前向き研究も含め散見されるが、白内障硝子体同時手術後のものについての報告はない。</p> <p>そのため、本研究により PPV 併施の PEA+IOL 後の IOL の偏心・傾斜が視機能に与える影響について前向きに検討する。</p>
倫理的配慮・個人情報の保護の方法について*	<p>1. 個人情報の保護</p> <p>本研究で得られた情報は、個人を識別することができる情報を除き、その方と関わりのない匿名化された番号を付ける。匿名化された番号との対応表は当部署内で厳重に保管する。</p> <p>2. データの公表</p> <p>本研究で得られたデータを発表する際には対応表は提供せ</p>

別紙第2号様式

	<p>ず、連結可能匿名化されたデータのみを提供する。学会や論文等で研究成果を発表する場合も、個人を特定できる情報を明らかにすることは決して行わない。</p> <p>3. 患者さまに生じる危険</p> <p>本研究では、前眼部光干渉断層計および波面収差測定計で術眼の水晶体・眼内レンズ角度および波面収差を測定し、通常 の定期外来で術後経過を観察する。当検査は乱視の評価、ト ーリックレンズ(乱視矯正眼内レンズ)の使用の可否および 術後の高次視機能の評価に用いられる検査である。1分程度 の非侵襲的な検査であり、診療自体に影響が出ることはなく 患者様に危険が生じることはないと考えられる。</p>
<p>研究の問い合わせ先 *</p>	<p>独立行政法人労働者健康福祉機構 大阪労災病院 眼科 岩間 康哲 Email: iwama.ophthal@gmail.com</p>

\*記入必須項目